

「A」次の古語の訳語として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

- 1 やむごとなし
 ①有名だ ②賢明だ ③高貴だ ④優雅だ
- 2 うるはし
 ①かわいらしい ②当世風だ ③頼もしい ④端正だ
- 3 あらまほし「形容詞」
 ①理想的だ ②華麗だ ③質素だ ④上品だ
- 4 おもしろし
 ①遊び心がある ②大切だ ③きちんとしている ④興味がある
- 5 はかなし
 ①もの悲しい ②頼りない ③無造作だ ④気の毒だ

「B」次の文の(訳)の「 」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

- 6 取りたてて、はかばかしき後見しなければ、事ある時は、なほ扨りどころなく心細げなり。(源氏物語)
 (訳) 格別に、「 」後ろ盾がないので、何かあらたまつた事があるときは、やはり頼るあてもなく心細そうだ。
 ①縁のある ②大げさな ③しつかりした ④魅力のある
- 7 熊谷、あまりにいとほしくて、いづくに刀を立つべしもおぼえず。(平家物語)
 (訳) 熊谷は、あまりに「 」で、どこに刀を突き立てたらよいかもわからない。
 ①興ざめ ②かわいそう ③幼そう ④気がかり
- 8 といはけなき御ありさまなれば、乳母たち近くさぶらひけり。(源氏物語)
 (訳) (女三の宮は) ひどく「 」ご様子なので、乳母たちがおそば近くに控えていた。
 ①心細い ②弱々しい ③みすばらしい ④幼い
- 9 やさしう申したるものかな。(平家物語)
 (訳) 「 」申したことよ。
 ①遠慮がちに ②簡単に ③けなげに ④穏やかに
- 10 おのおの拝みて、ゆゆしく信おこしたり。(徒然草)
 (訳) それぞれ拝んで、「 」信心をおこした。
 ①ふさわしく ②はなはだしく ③当然に ④突然に
- 11 花びらの端に、をかしき匂ひこそ、心もとなうつきためれ。(枕草子)
 (訳) (梨の花は)花びらの端に、趣深い色つやが、「 」ほどついているようだ。
 ①不安な ②意外な ③おびたしい ④はつきりしない
- 12 すべて、いとも知らぬ道の物語したる、かたはらいたく聞きにくし。(徒然草)
 (訳) 何事でも、たいして知らない方面の話をしているのは、(はたで聞いていて)「 」聞き苦しいものだ。
 ①心細く ②見苦しく ③おもしろくなく ④難しく
- 13 寺をこそ、いとかしこく造りたなれ。(源氏物語)
 (訳) 寺を、実に「 」造つたそうだ。
 ①すばらしく ②大げさに ③趣深く ④こじんまりと
- 14 その沢にかきつばたいとおもしろく咲きたり。(伊勢物語)
 (訳) その沢にかきつばたがたいそう「 」咲いている。
 ①しんみりと ②滑稽に ③すばらしく ④かわいらしく
- 15 はかばかしくも身の上をえ知り侍らず。(宇津保物語)
 (訳) 「 」身の上を知ることができません。
 ①少しも ②特別に ③これ以上 ④はつきり

- 15 (④)
- 14 (③)
- 13 (①)
- 12 (②)
- 11 (④)
- 10 (②)
- 9 (③)
- 8 (④)
- 7 (②)
- 6 (③)
- 5 (②)
- 4 (④)
- 3 (①)
- 2 (④)
- 1 (③)